

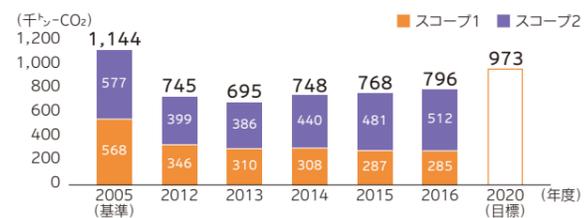
地球環境と共生し、持続可能な社会の実現を目指しています。



温室効果ガスの排出量(国内)削減実績

日軽金グループの国内の2016年度温室効果ガス排出量は、前年度比3.7%増の796千トンとなりました。燃料転換などの省エネ努力によって燃料消費に起因する排出量(スコープ1)は減少していますが、生産増などにより電力消費に起因する排出量(スコープ2)が増加し、全体として増加しました。

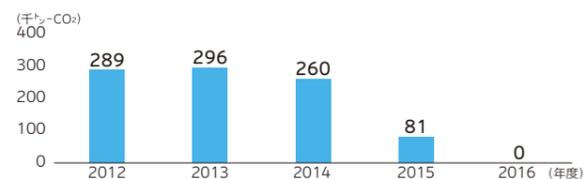
温室効果ガス排出量(国内)★



※集計の範囲:国内連結子会社 23社
 ★:記載情報の信頼性を保証するために、KPMGあずさステナビリティチームによる第三者保証を実施しています。
 ※算出には、次のCO₂排出係数を使用しています。
 電力:電気事業連合会/電気事業低炭素社会協議会公表の前年度使用端CO₂排出原単位
 燃料:「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の各燃料の単位当たりの発熱量と熱量当たりのCO₂排出量
 ※日本軽金属浦原製造所の水力発電についても、同係数を使用しています。
 ※目標および実績値にはフロン起因の排出量は含んでいません。

他方、スコープ3において、大きな成果がありました。日軽パネルシステム㈱では、生産されるすべての断熱不燃パネルのノンフロン化を実現し、2016年4月以降、温暖化への影響が大きな代替フロンの使用をゼロにしました。これは年間およそ30万トンのCO₂削減と同等の効果であり、2016年度の日軽金グループのエネルギー消費に起因するCO₂排出量のおよそ1/3に相当します。

日軽パネルシステム㈱でのフロン使用量(温室効果ガス換算)



削減自主行動計画の見直し

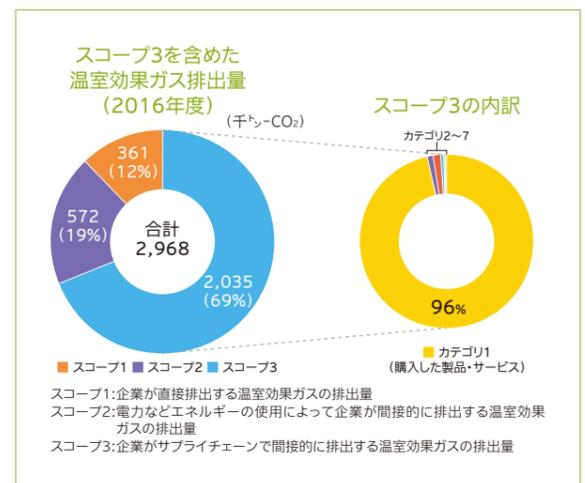
日軽金グループでは温室効果ガスの排出量削減自主行動計画として、2020年度までに2005年度比で15%削減する目標を立て活動しています。目標の達成状況や、2015年にCOP21で採択されたパリ協定で公約となったわが国目標に鑑み、2030年を目標年度とする新規自主行動計画の策定に取り組むとともに、引き続き更なる温室効果ガスの削減をめざしています。

海外サイト※1を含めた温室効果ガス排出量実績

日軽金グループでは、海外サイトでの温室効果ガス排出量の把握に努めています。2016年度より海外の全サイトで把握し、その排出量は137千トン※2となりました。

※1 サイト:環境マネジメントシステムを適用する対象範囲及びその単位
 ※2 算出には日本国内のCO₂排出係数を使用しています。今後各国の実情に合わせた係数を使用し、精度の向上に努めます。

海外サイトも含めたグループ全体の温室効果ガス排出量(2016年度)



海外で環境担当者会議を初開催

日軽金グループの海外展開の拡大によって、現地における環境管理の対象も広がっています。こうした状況にグループで対応するとともに、現地サイト間で連携を強化するため、サイト数が多く環境への取組みが進んでいるタイ国で、2016年10月に環境担当者会議を初めて開催しました。会議には3社5サイトより担当者が参加し、各工場の環境管理活動の紹介、タイ国の環境法令情報の共有、環境施設の視察などを行いました。廃棄物管理やハトの工場侵入対策などの実務などについて、活発な質疑や議論が行われ、現地スタッフ間で課題や目標の共有ができました。今後も環境担当者会議を継続して開催し、海外における環境リスクの低減を図っていきます。



環境設備視察の様子

環境担当者会議の様子

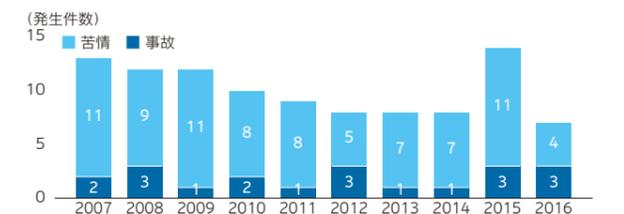
環境に関わる事故・緊急対応

日軽金グループは、環境に関わる事故およびそれに対する緊急対応については、国内外で速報システムを整備・運用しています。

2016年度は環境に関わる訴訟・罰金・科料はありませんでした。なお、環境に関する苦情※が4件(国内3・海外1)寄せられ、環境に関する軽微な事故※は国内3件発生しました。いずれも発生サイトおよび環境統括部門が連携して再発防止を含む対応を行いました。

環境トラブルを更に低減するため、日軽金グループでは漏洩検知態勢の増強・整備・更新、防音対策の推進など、各サイトに応じたリスク低減対策を積極的に進めています。また、住民説明会を定期的に開催して環境測定結果を開示し、騒音などの苦情低減の対策内容を説明するなど、地域との地道なコミュニケーションに努めています。

環境トラブル発生状況



※苦情:外部からの申し立て件数(臭い・騒音など)
 ※事故:影響が外部におよぶ環境トラブル(油・薬剤の漏えいなど)

TOPIC

廃硫酸処理をゼロに

日軽新潟㈱では、アルミニウム表面処理で硫酸を使用しており、毎月約100トンの廃硫酸が発生していました。2016年5月に、硫酸を回収し再利用する装置を導入し、廃硫酸処理のゼロ化を達成しました。この装置は圧力透析という表面処理分野では新しい手法を用いています。



硫酸回収装置

廃硫酸処分量





生物多様性保全活動

日軽金グループは、「生物多様性ガイドライン」に基づき、国内外の各サイトで、段階に応じたさまざまな手法で生物多様性保全活動を推進しています。具体的には、事業活動が生物多様性に及ぼす関わりをモニタリングしたり、生物多様性に配慮した事業活動を行ったり、地域のコミュニティとの連携によって生物多様性に及ぼす影響の低減に努めています。

植樹、ビオトープ

Green and biotope building

珊瑚礁の保護活動



ニッケイ・サイアム社(タイ)



工業団地での植樹



ニッケイ・サイアム社(タイ)
アマタナコン工場

工場内緑地化

Green building in bounds

庭園とビオトープ



日本軽金属(株)苫小牧製造所



日軽新潟(株)



事務棟屋上庭園とビオトープ



フルハーブマハジャック社(タイ)



ニッケイ・サイアム社(タイ)
アマタナコン工場



ニッケイエムシーアルミ(タイ)社 ウェルグロー工場

放水路へ飛来する野鳥の観測



日本軽金属(株)蒲原製造所

周辺清掃、環境モニター

Cleanup and environmental monitoring

魚道の設置



柿元ダム



十島堰堤に設置された魚道

NPOとの連携



「共生の森」づくりへの参画 (株)エヌティーシー

マングローブ保全活動



ニッケイエムシーアルミ(タイ)社

三保の松原(世界遺産)植樹と海岸清掃



日軽産業(株)



理研軽金属工業(株)



排水路のモニター 日本軽金属(株)清水工場



工場外周の見回り (株)東陽理化学研究所



工場周辺の清掃
日軽形材(株)



工場周辺の清掃
日軽パネルシステム(株)滋賀工場



工場周辺の清掃
ニッケイエムシーアルミ(タイ)社ウェルグロー工場